

1月6日より5日間に渡って行われた園庭整備が、無事終了しました。その間、送迎などの際にご迷惑をおかけしましたが、ご協力いただきありがとうございます。

こどもデザイン研究所の紹介で来て下さった、緑鳳園(植木屋)さんは、こちらの思いを深く汲み取って下さり、園が休みの日にも子どもたちのためにととても丁寧に作業を進めて下さり、心から感謝です。

これで園庭整備は完成ではなく、これからがスタートです。安全面はもちろん、何よりも子どもたちがワクワクする園庭になっていくように、試行錯誤していきます。これまで以上に泥を付けて帰ります。洗濯などご負担をおかけしますが、どうぞご理解とご協力をお願いいたします。



「木斛(もっこく)」

木登りが簡単になりすぎないように剪定していただきましたが、早速一番上まで行く子も!



「小岱山・万田坑」

小さいクラスには急な傾斜です。大人は手助けせず、挑戦をゆっくり見守りましょう!



Q:そもそもなぜ園庭整備?

A:今までの園庭は、平坦な地面に既製遊具が並んでいる、学校の「運動場」のようでした。運動場は体育のように決められたカリキュラムに沿って運動するには適しています。けれども、「子ども自ら」に遊びを見つけ、広げ、発展させるには不十分です。子ども自身の「やりたい」という気持ちが芽生えるために、築山や木がある園庭整備を行っています。

Q:めぐフェス(旧・運動会)は?

A:今年度から運動会は「めぐフェス」へと変わりました。それは「行事中心の一斉保育から、日々の遊びを中心とした子ども主体の保育へ」という願いが込められています。今までのような形での観覧は難しくなりますが、出来れば従来どおり園庭で行いたいと考えています。トンネルや築山を使った種目など、まさに日々の遊びが繋がる、楽しい「めぐフェス」に変わっていくのではないかと期待しています。

Q:安全面は?

A:「子ども自らに挑戦できる園庭」を目指しつつ、保育者がハラハラドキドキではなくワクワクドキドキするような環境を実現するために、危険度が高い鉄製遊具(ジャングルジムなど)を減らしてきました。築山は垂直落下する危険はありません。トンネル部分や、木登りに関しても、万が一の時を考え、根の方はふかふかの土にしています。

次の2点にご協力下さい。

①手助けしない。自分で登れるようになるまで待つ。

→ 危険察知能力を育て怪我を防ぐために。

②「がんばれ」ではなく「見守る」。

→ 子どもは自分で挑戦する時を決められます。どうしようと「葛藤」することも大切です。子どもを信じて見守りましょう。

「ミニ築山(仮)」



「万田坑トンネル」を抜けると「雲仙岳」が正面に!

一度設置されたトンネルをこの角度にしてもらうために、再調整していただきましたm(_ _)m

「小檜(こなら)」

ドングリが楽しみ!

「木は気かけると、きちんと答えてくれるから、目をかけてあげて下さい」(植木屋さん)

大切に育てていきましょう!

